

北上市総合計画 2021～2030 令和5年度基本施策事後評価シート（評価対象期間：令和4年度）

基本方針	2.未来を創る人づくり
基本施策	2-1.変化する社会を生き抜く「知・徳・体」の育成
関連するプロジェクト	2.学びの改革プロジェクト

国籍、心身の状態、家庭環境等を問わず、すべての児童生徒の「知・徳・体」を育てるため、豊かな自然、伝統ある郷土文化等、地域の様々な資源を活かし、教育機関との連携強化を図りながら、充実した学校教育を展開します。また、学校給食による食育を推進し、子どもたちが積極的に心身の健康の保持増進を図っていく資質や能力を身に付け、生涯を通じて健康・安全な生活を送る基礎を培います。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価	A
------	---

R5事後	3
------	---

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

No.	担当部等	プロジェクト	推進方針	成果指標	達成状況(対象:R4) (上段:指標に基づくもの 下段:指標以外のもの)	達成状況 評価	達成状況分析(上段:指標に基づくもの 下段:指標以外のもの)		今後の方向性 (◇:R5に着手予定・着手済み ◆:R6以降の着手を検討)
							内部要因	外部要因	
1	教育部	●	確かな学力と情報活用能力の育成	①②	<p>新しい学習指導要領に基づき、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組み、言語能力の育成・外国語教育・プログラミング教育・理数教育等の充実を図る。また、児童生徒一人に1台タブレット端末の整備を進めることで、情報を整理・比較・発信・伝達したり、共有したりする情報活用能力の向上を図る。</p> <p>児童生徒の一人一台端末の授業での活用のほか、家庭への持ち帰りによる活用を進めることができた。ただし、学校間、教員間の使用頻度の差が大きいのは課題である。</p>	A (B)	<p>小中学校ともに、新しい学習指導要領の改訂に基づき、身に付けさせたい資質・能力を明らかにしながら授業改善が進められてきている。</p> <p>活用に向け、スタート研修等教員対象の研修を実施し、活用の幅を広げることができた。毎月の運用定例会を実施することで、活用状況を把握し、個別の対応を行うことができた。</p>	<p>総合学力調査に限らず、全国学調や県学調において獲得した知識を活用する問題や、他者の考えをもとに自分の考えを再構築する問題など、より生きて働く学力を問う問題構成となってきた。</p> <p>運用にかかわる各学校で発生したトラブルに対し、契約している通信業者のサポートセンターが迅速な対応を行った。</p>	<p>◇各種学力調査結果をもとに、目指すべき資質・能力を明らかにした教師の授業改善を推進する。また、児童生徒のつまずきに対して、具体的支援策を講じていく。目標と一体化された評価問題の工夫により、学力の定着状況を把握し、より生きて働く学力の定着を目指す。</p> <p>◇端末の更なる活用推進に向け、OJTIによる校内での研修の実施や運用定例会を継続実施する。</p>
2	教育部	●	不登校児童生徒への対応	③④	<p>不登校児童生徒の個々の状況を把握した上で、不登校児童生徒やその保護者の心情に寄り添い、丁寧且つ適切な学習支援及び相談に取り組みとともに、学校以外の関係機関との連携強化を図るため、スクールソーシャルワーカー(SSW)を増員する。</p>	B (B)	<p>小中学校とも、前年度より不登校出現率が増加した。結果が分かっている令和3年度の県、全国の不登校出現率と比較した場合、小学校では、県を若干上回ったものの全国を下回っている。中学校では、全国、県とも下回っている。</p> <p>個々に様々な要因があるが、子どもの耐性に期待することが少なくない。また、状況に応じて休ませる傾向が強まっており、教員の取組だけでは、解決が困難である。</p>	<p>家庭環境に起因すると思われるケースが少なくないが、スクールソーシャルワーカー(SSW)の配置が十分でないため、学校と福祉分野や医療分野等が全ての事案で連携に至っていない。</p>	<p>◇学校においては、早期発見、組織的な対応を継続実施する。</p> <p>◇学びのサポートセンターないやスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、その他関係機関と連携しケース会議を実施する。</p> <p>◇教育相談員やスクールソーシャルワーカーを活用し、個別の保護者対応や学校サポートを行う。</p> <p>◇端末での健康観察やリモート学習を積極的に推奨し、当該児童生徒とつながりを保つとともに、学びの保障を行っていく。</p> <p>◇保護者会の必要性について、ニーズの把握に努める。</p>
3	教育部	●	グローバルな人材の育成	⑤	<p>英検補助対象受検者数における合格者の割合は、期待値を下回る結果であったが、中学校3年生卒業レベルとされる3級よりも上の準2級の合格率が前年度に比べ、上昇している。</p> <p>イングリッシュ・キャンプ(中学生対象)、イングリッシュ・ワールド(小学生対象)、ステップアップ英語講座、オンライン英会話講座を実施した。小学生4～6年生を対象とした科学実験教室では、定員数を上回る申し込みがあった。</p>	B (B)	<p>・昨年度に比べ、準2級の合格率が28.8%から42.2%と上昇したが、合格者の全体に占める割合が6%と低い。5級の合格率は令和3年度81.9%から67.4%と大きく下がり、合格者の全体に占める割合は36%と3分の1を占めている。他の級については、ほぼ同じ合格率となっている。</p> <p>・精選を図りながら、児童生徒の英語力の向上に資する内容としていく。</p>	<p>◇北上市英語力推進アクションプランの周知を図る。</p> <p>◇小学校外国語及び中学校英語の授業改善や教育研究所英語力向上部会による指導法の研究推進を図るとともに、英語検定補助事業、ステップアップ英語講座の継続実施とその充実によりCEFR A1レベルの英語力を身に付けた生徒の育成を目指す。</p> <p>◇各事業の内容を見直ししながら継続実施し、外国語や科学に触れる機会を創出する。</p>	
4	教育部		食に関する自己管理能力の育成	⑥	<p>食に関する指導の実施率は54.1%であり、小中学校全266学級中144学級で栄養教職員が参加して食の指導を実施した。令和3年度よりも2.4ポイント上昇し、期待値を上回っている。</p>	B (B)	<p>・給食提供業務との兼ね合いで、各センターで対象学年を決めて学校へ希望をとって実施している。</p>	<p>◇引き続き、学校と連携しながら、継続して実施する。</p>	

凡例 ●実績値 ○期待値

指標	指標の説明	実績値							期待値
担当部等	単位	R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
総合学力調査における平均正答率の全国比〔2教科(国・算)小学4年〕	2教科の学力検査の正答率の平均値								
教育部	%	実績値 103.9	100	100	103.6				期待値 103.5
		期待値 ※R7は目標値 103.9	103.8	103.6	103.5	103.3	103.2	103.0	
		備考							
総合学力調査における平均正答率の全国比〔5教科(国・数・社・理・英)中学1年〕	5教科の学力検査の正答率の平均値								
教育部	%	実績値 96.10	100	97.6	97.2				期待値 98.5
		期待値 ※R7は目標値 96.1	96.917	97.733	98.55	99.367	100.18	101	
		備考							
市内小学校在籍児童数に占める不登校児童の割合(年間30日以上)	市内小学校在籍児童数に占める不登校児童の割合(年間30日以上) ※全国の出現率を下回る%。								
教育部	%	実績値 0.54	0.57	0.86	1.22				期待値 1.2
		期待値 ※R7は目標値 -	-	-	-	-	-	-	
		備考							
市内中学校在籍生徒数に占める不登校生徒の割合(年間30日以上)	市内中学校在籍生徒数に占める不登校生徒の割合(年間30日以上) ※全国の出現率を下回る%。								
教育部	%	実績値 3.07	3.24	3.93	4.93				期待値 6.0
		期待値 ※R7は目標値 -	-	-	-	-	-	-	
		備考							
英検補助対象受検者数における合格者の割合	級を問わず、英検補助対象の英検を受検した生徒のうち合格した生徒の割合								
教育部	%	実績値 58.9	61.6	58.7	54.0				期待値 62.0
		期待値 ※R7は目標値 58.9	59.417	59.933	60.45	60.967	61.483	62	
		備考							
食に関する指導の実施率(クラス数単位)	小中学校の全クラス数に対して、栄養教職員が参加して食に関する指導を実施したクラスの割合								
教育部	%	実績値 37.8	53.9	51.7	54.1				期待値 55.0
		期待値 ※R7は目標値 37.8	41.5	45.2	48.9	52.6	56.3	60	
		備考							
指標 ⑦	指標の説明	実績値							期待値
担当部等	単位	R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値							期待値
		期待値 ※R7は目標値							
		備考							
指標 ⑬	指標の説明	実績値							期待値
担当部等	単位	R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値							期待値
		期待値 ※R7は目標値							
		備考							